

科目	生活行動援助技術Ⅱ				
時間数	1単位 30時間	授業方法	講義・演習	授業時期	1年
講師名	③八塚愛未 ③河本さやか ③中山彩				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	<p>看護は実践の科学であり、対象に応じた援助として具体的な実践によって看護となる。</p> <p>看護技術は、看護を実践するための専門的な能力であること、知識・技術・態度の統合として学ぶことの重要性が理解できる。</p> <p>看護技術の基本原則を理解し、あらゆる対象に応用できる基礎的能力を養う。</p> <p>特に本講では、技術の修得方法について(サブノート作成過程)導入学習として指導し、今後主体的に自己学習ができる方法と態度を養うことを目的とする。</p>				
目標	<p>1. 清潔の意義を理解し、対象の状況を考慮した全身の清潔方法を学ぶ。</p> <p>2. 栄養と食事、食生活の意義を理解し、対象の状態を考慮した食事介助が出来る。</p> <p>3. 排泄の意義を理解し、便・尿器を使用した排泄の介助が出来る。</p>				
授業計画					
回	内容				
1～8	<p>1. 清潔・衣生活援助技術</p> <p>(1) 清潔・衣生活とは</p> <p>(2) 清潔・衣生活援助の実際(全身清拭、寝衣交換、手浴、足浴、陰部洗浄、整容)</p>				
9～12	<p>2. 排泄援助技術</p> <p>(1) 排泄とは</p> <p>(2) 自然排尿および自然排便の介助の実際(トイレ、ポータブルトイレ、床上排泄、オムツ)</p>				
13～14	陰部洗浄・オムツ交換実技テスト				
15	筆記テスト				
評価方法	<p>その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。</p> <p>筆記試験 80%、実技テスト 10%、その他(オンライン教材取り組み状況・レポート等)10%を総合して評価する。筆記試験 60%以上取得及び総合 60点以上を及第点とする。</p>				
教科書	<p>基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ:医学書院</p> <p>根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第2版:医学書院</p>				